

影絵劇の魅力

劇団かかし座 山下 義文

私が所属する劇団かかし座は影絵劇団です。一般の演劇では俳優が演じますし、人形劇では人形が演じます。ところが影絵劇を演じるのは影です。前者と違って実体のある物ではないんですね。

かつて私が住んでいたアパートでのこと。毎朝鳩がやってきて窓の手すりに留まるんです。そのアパートは窓の内側にカーテン代わりの障子がありまして、晴れた朝には鳩の影が映るんです。2羽の鳩の影が互いの口ばしを啄ばんだりしているのを見ると、私は「夫婦でチューしてるのかな？」などと思うわけです。本当は夫婦喧嘩だったのかもしれませんが(笑)。私たちは影を見たとき、その向こうの実体を思い浮かべ、表情や感情までも想像します。つまり影絵劇とは、人間の想像力をフル稼働して楽しむ演劇だと私は思っています。

今度は私の妻の幼稚園公演でのこと。片付けも終わって玄関から帰ろうとしたとき、一人の園児が近寄ってきたそうです。妻は差し込む陽の光でスノコに手影絵のウサギを映してみせたところ、園児は突然ウサギが現れたものですから、「おっ」と声を上げて驚いたそうです。そこで妻は、今度は組んだ両手をばらしてウサギを消しました。すると園児はまた「おっ」と声を上げ、スノコの裏を覗き、いなくなったウサギを探したそうです。おもしろいでしょう。意地の悪い妻は何度もウサギを出したり消したりして、園児を弄びました(笑)。「子どもらしい」「かわいらしい」行動だと一言で片付けてしまうのは簡単です。でも、実体がないのに実体を感じて遊ぶことができる。素敵だと思いませんか3月例会「長靴をはいたねこ」では様々な手影絵が登場します。私たちは両手や頭など身体一つでいろんな動物を作ってみせます。人間の手はこんなことまで表現できるのか！是非その素晴らしさを感じてみて下さい。



山下 義文氏
プロフィール

劇団かかし座 企画営業部。

1994年、劇団かかし座入団。

俳優として「黄金のかもしか」「ニールスのふしぎな旅」「風がみていた物語」等に出演。

1999年、制作(企画営業部)

に転向、主に西日本を担当。

広島県出身。好きなお菓子は母恵夢。